

生物資源開発学科

1. 教育研究上の目的

本学科は農業生態系のみならず、人類が将来にわたり安定した生活を維持するために不可欠な自然生態系に至る多様な生物を資源として捉え、その多様性に関する知識と理解を基礎として、様々な生物の生育・生息環境の保全を実践する技術と、生物資源の持続可能な利活用や開発に必要な技術を修得し、農学領域の諸課題の解決に寄与しうる能力を有した人材を養成する。

2. 教育目標

生物資源開発学科は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- (1) 植物、動物、昆虫などの生物および生態系に関する多面的な知識を有し、これらの保全・保護に関する高い意識を身につけること。
- (2) 生物多様性から生み出される生態系サービスを多面的に利活用するとともに、生物資源の持続的利用や開発を通じ、未来に託せる環境づくりを構想できる能力を身につけること。
- (3) 地球的規模での生物多様性を理解した上で、農業生態系を中心とした人と自然との共存について考究でき、持続可能な社会づくりに貢献できる能力を身につけること。

3. ディプロマ・ポリシー

生物資源開発学科は、農業ならびに農学の基盤となる生物多様性や生物資源にかかわる広範な基礎知識と判断力、問題解決能力を身につけ、農業ならびに環境関連産業のみならず、教育普及関連など幅広い分野において、それぞれの立場から人と自然の共存を追求し、未来に安心して託せる環境の保全を考え、生物資源の利活用と持続可能な社会を創造できる人材を輩出するため、以下の能力を備えた学生に学位を授与します。

- (1) 農業ならびに農学の基盤となる生物多様性とその保全、生物資源の開発と利活用について必要な知識と応用力、コミュニケーション能力を有している。
- (2) 生物資源、生物多様性、環境、健康問題に関する知識と理解力を有している。
- (3) 農業、環境、教育関連産業の発展に貢献できる能力を有している。
- (4) 社会人としてそれぞれの立場から、生物資源、生物多様性、環境、健康問題などの解決に貢献できる能力を有している。

4. カリキュラム・ポリシー

生物資源開発学科では、農業ならびに農学の基盤となる生物多様性とその保全から生物資源の開発、利活用に至る広範な知識を修得し、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下のような方針の下に教育課程を編成します。

- (1) 農業・農学ならびにその基盤となる生物多様性や生物資源にかかわる広範な基礎知識を理解させるために、全学共通科目、学部共通科目、学科基礎科目と、学科専門科目の専門共通科目と創生型科目を配当する。
- (2) 農業生産や環境問題などの諸問題をふまえ、生物多様性の保全や生物資源の開発と持続的利活用の重要性について理解させ、問題解決能力と実践的専門知識を修得させるために、学科専門科目の専門基礎科目と専門コア科目を配当する。
- (3) 生物資源と生物多様性の関係を広く理解し、社会に還元できる能力を修得するために、学科専門科目の学際領域科目を配当する。
- (4) 実践的専門知識ならびに論理的な思考力、表現力、討議力、コミュニケーション能力を修得させるために、実験、演習のほか4年間の学修の集大成となる卒業論文を必修科目（学科専門科目の総合化科目）として配当する。

5. アドミッション・ポリシー

生物資源開発学科では、農用動植物のみならず、野生の動植物を含め、農業生態系やそれを取りまく里地・里山の環境から自然生態系に至る生物の多様性に興味をもち、その保全・管理から生物資源としての開発や利活用を通じて、未来に安心して託せる地球環境の保全と持続可能な社会づくりに貢献しようとする意欲のある学生を求めています。

- (1) 生命、生物多様性など、生物学に関する素養を身につけている。
- (2) 環境に配慮した農業や生物多様性の保全などの環境問題や、野生の動植物を含む生物多様性の解明、各種生物資源の保全や管理、開発などに積極的に取り組む意欲を有している。
- (3) 農業および環境関連産業、教育普及分野で活躍しようとする意欲を有している。